

**日本共産党は、後期高齢者医療制度廃止法案の審議入りと成立のために、全力を尽くします！自ら提出した法案の審議ボイコットをする民主党は無責任！**

**「ご近所のみなさん、日本共産党です。」**

いつも、後期高齢者医療制度の廃止を求める、署名運動へのご協力、ありがとうございます。

集めた署名は、十一日(水曜日)、国会に届けてまいりました。

この日は、参議院で、福田首相に対する問責決議が上げられ、請願署名の受付も、野党共同で行われました。

参議院可決に続いて、衆議院での徹底審議と成立を、多くのみなさんが、望んでおられるのではないのでしょうか。

日本共産党は、国会内外で、全力を尽くす決意です。

引き続き、署名運動へのご協力を、よろしくお願いします。

**みなさん。**

後期高齢者医療制度の廃止を求める、世論と運動に押されて、自民・公明の政府・与党は、実施前に続いて、二度目の「手直し」を、打ち出さざるをえなくなりました。

しかし、その内容は、年金収入が八十万円以下の世帯の、保険料を九十パーセント軽減するなど、保険料の部分的な軽減策です。対象になるのは、七十五歳以上の方の、三割以下にすぎません。

しかも、二年ごとに見直して、「後期高齢者」が増え、医療が高度化するにつれて、保険料を値上げしていく、仕組みそのものは残されました。今回、下がっても、将来の保険料は、どんどん上がり続けることとなります。

**何よりも、みなさん。**

七十五歳以上の方々を「後期高齢者」とよんで、国保など他の健康保険や扶養家族から引き離して、困い込む、制度の根幹が残されました。際限のない負担増の一方で、受けられる医療は差別するという、制度の根幹そのものは、残されました。

年金からの保険料天引きについて、「一部選択制」にするとか、診療報酬について、在宅死を誘導する、「終末期相談支援料」を、「当面凍結」することなども、打ち出されました。

こうした場当たりの「手直し」は、制度の運営現場である、地方自治体を混乱させるだけでは、ないのでしょうか。

**後期高齢者医療制度は、廃止しかないという声を、広げていくではありませんか。**

**「ご近所のみなさん。」**

埼玉県では、西五区・旧上福岡市で行われた、定数一の県会議員再選挙で、日本共産党の山川すみえさんが、見事当選しました。沖縄県会議員選挙では、与野党が逆転し、日本共産党は、現有三議席から五議席へと前進しました。

後期高齢者医療制度に対する怒りが、燃え広がった結果です。

**国会は、いよいよ、会期末に向かっています。**

野党は、共同の力で、衆議院でも、後期高齢者医療制度廃止法案を、徹底審議して、可決に向けた努力を、するべきではないのでしょうか。

民主党や社民党が、自ら提出した法案の、審議をボイコットするのは、無責任すぎるのではないのでしょうか。

日本共産党は、野党が、法案提出者としての責任を果たすことを、強く、求めます。少なくとも、日本共産党の**審議権を認め、野党の意思をゆだねることを、強く、求めます。**ご静聴・ご協力、ありがとうございます。